

は し が き

この記録は、平成3年9月29日執行の参議院福岡県選出議員補欠選挙、平成3年11月10日執行の福岡県議会議員補欠選挙（筑紫野市選挙区）及び平成3年9月8日から同年12月15日までに執行された市町村長・議会議員選挙の結果を収めたものである。

この度の参議院議員補欠選挙は、8月17日に本村和喜参議院議員が死去したことに伴い執行された。これで本県では同様に現職参議院議員の死去を理由に執行された平成元年2月12日、平成2年6月10日の補欠選挙に引き続き、三年連続の補欠選挙の執行となった。

選挙は一議席をめぐる、自由民主党、日本社会党及び日本共産党の三候補者が争い、前二回の補欠選挙で敗れていた自民党が議席を確保する結果となった。

この補欠選挙は、あと一年足らずと迫った今年夏の参議院議員通常選挙の前哨戦と位置付ける向きもあったが、投票率は、29.23%と、本県の国政選挙としては最低の数字となった。全国的な投票率の低下傾向の中で、補欠選挙の投票率は一段と低い数字が示されるのが例であるが、際立った争点を欠いた中で春の統一地方選挙や三年連続の補欠選挙の疲れが言われ、当選しても残りの任期が一年に満たないこともあって、盛り上がり欠けた選挙戦となったようである。しかも選挙運動期間中に二度も台風が襲来し、家屋や農作物、橋・道路の土木施設に大きな被害をもたらした。特に投票日間近の27日の台風19号は、県南地区などに甚大な被害を及ぼし、投票当日の有権者の出足を鈍らせたことも一つの要因である。

また、福岡県議会議員補欠選挙は、9月27日に木村正剛県議会議員（筑紫野市選挙区）の死去に伴い執行されたもので、平成2年6月10日に参議院議員補欠選挙と同日に糸島郡、八幡西区両選挙区で行われて以来の県議補欠選挙となった。

補欠選挙は現職議員の死亡に伴う突然の選挙であり、限られた日数のうちに膨大な事務処理を的確に行うことが求められる。ことに今回の台風19号の到来は投票日直前であったために、停電の中での投・開票の準備を余儀なくされたところも多数あったが、大過なく終えることができた。これもひとえに各市区町村選挙管理委員会及び関係各位の御協力、御努力の御蔭と深く感謝する次第である。

平成4年3月

福岡県選挙管理委員会
委員長 田 邊 俊 明